

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議

(平成27年度第1回)

日時：平成27年7月3日（金）午後2時～午後3時30分

場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

○（岡村）事務局

皆さん、こんにちは。皆さんお揃いになりましたので、時間にもなりましたし、ただいまから手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議の平成27年度第1回の会議を始めさせていただきます。本日は皆さん、お忙しいところお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。私は、本日の進行を進めさせていただきます、県庁障がい福祉課の岡村と申します。よろしく願いいたします。ではまず開会にあたりまして、本会議の委員長であります鳥取県福祉保健部長の松田からご挨拶申し上げます。

2 委員長あいさつ

○（松田）委員長

皆さん、こんにちは。本日はどうもありがとうございます。今年度第1回目の手話パフォーマンス甲子園企画推進会議ということで、今年から少し組織を大きくして、その実動部隊の会議ということでお集まりいただきました。ほんとうに皆さんお忙しい中、ありがとうございます。遠路からもお集まりいただいた皆さんありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。去年は第1回目ということで、全国の方々、多くの高校の方々にご参加いただいて無事に開催することができました。ほんとにその折には大変お世話になりました。今年は2回目で、この大会はこの先どういう動きができるか、第1回目は一生懸命でしたけど、第2回目にどういうふうな動きができるかという意味で、気合を入れて、全国の参加していただける高校あるいは、県に問い合わせをさせていただいているところでもあります。のちほどご報告いたしますけれども、まだ7月10日までが応募の期間になっておりますことから、手元に届いている学校の応募が少ないところではございますけれども、全国では一生懸命練習をして、すばらしいパフォーマンスをビデオに収めつつやっていただけるかなあというふうに考えているところです。今年も去年の案を参考にしながら、原案なり議案を作成をして、本会の皆様にご審議をいただくこととしております。去年の反省事項も多くあったことと思いますので、その点を踏まえた議案にしているところだと思っておりますけれども、更にそれぞれにご意見をいただいて、よりすばらしい会にできるようにしていきたいと思っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

○（岡村）事務局

次に委員の皆様のご紹介なんですけれども、本来でしたら本日ご出席いただいております皆様全員をご紹介させていただくところではあります、時間の都合もございますので、まことに恐縮ですけれども、お手元の出席者名簿をもってご紹介に代えさせていただきますと思います。なお、本日も遠方の方から筑波技術大学の杉本委員様、それから全日本ろうあ連盟の青年部長さんの廣田委員様にお越しいただいております。遠方よりお越しく下さりありがとうございます。それからこの度新しく3名の方を新しい委員としてお迎えさせていただいております。今回、委員にご就任くださった皆様につきましては、のちほどあらためてご紹介をさせていただきます。それから議事に入ります前に、発言していただく際のお願いをちょっとここでさせていただきます。ご発言いただく際には、まず手を挙げていただきまして、そのあとお名前を述べていただいて、そのあとゆっくりお話しくさいますよう、ご協力よろしくお願ひいたします。

では、これより議事に入らせていただきます。これから先は実行委員会設置運営要綱に基づきまして、松田委員長に議長をお願いいたします。それでは、松田委員長、議事の進行をお願いいたします。

○（松田）委員長

松田です。それでは、議事を進めさせていただきます。

3 報告事項

（1）委員の委嘱について（資料1）

○（松田）委員長

それではまず報告事項について、説明をしていただきたいと思います。お手元の資料1をお願いいたします。資料1の「委員の委嘱について」ということで、事務局より説明をお願いします。

○鈴木（事務局）

皆さん、こんにちは。鳥取県庁障がい福祉課の鈴木と申します。今日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。手話パフォーマンス甲子園の担当としてやらさせていただきます。よろしくお願ひいたします。それでは座って失礼します。資料1をご覧くださいませでしょうか。この企画推進会議の委員名簿でございます。3名の方の人事異動に伴いまして、新たに3名の方を4月20日付で委員に委嘱させていただきます。全体12名のうち3名が新たに加わられたということでございます。ご紹介いたします。

社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会杉本専務理事様でございます。

○（杉本）委員

杉本です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○（鈴木）事務局

あと、本日欠席をしておられますが、鳥取県高等学校校長協会の藤原会長様も新しく就任していただいております。また、鳥取県私立中学高等学校校長会の山内先生にもおいでいただいております。

○（山内）委員

よろしく申し上げます。山内です。

○（鈴木）事務局

ということで、今年度の手話パフォーマンス甲子園の実行委員会の企画推進会議のメンバーとして12名の皆様方に委員をお願いするものでございます。資料1につきましての説明は以上でございます。

（2）参加チームの申込み状況について（資料2）

○（松田）委員長

それでは次に進みたいと思います。お手元の資料2をお願いいたします。

○（鈴木）事務局

それでは資料2でございます。参加チームの申し込み状況について、ご説明をさせていただきたいと思います。今現在、7月10日までの募集期間でございますが、7月2日時点で4校から申し込みをいただいております。福岡（大和青高校）、石川（田鶴浜高校）、福岡（小倉南高校）、鳥取（城北高校）ということで申し込みをいただいております。前回優勝されました石川の田鶴浜高等学校も早速に応募いただいているところでございます。来週の金曜日が締切でございます、なかなかちょっと申し込みが多くないというご意見もいただいております。今後締切が近づくに連れて、どばっと沢山の応募があるのではないかと考えております。事務局の方でいろいろと昨年予選に参加されたところと、出場されたところに、意向の確認をさせていただいております。概ね昨年と同じか、それ以上の申し込みをいただけるのではないかなあというふうに我々としては考えております。まだ応募期間でございますので、皆様方もぜひともPRをしていただければと思いますし、一部の方からお聞きした話によりますと、昨年の優勝・準優勝・第3位の学校のパフォーマンスがほんとにすばらしくて、ちょっとハードルが高くなっちゃってるのではないかというふうなお話もあるようでございます。本選に出られるチームが20チームと限られていますが、いろいろの学校に参加していただくよう、最後までお願いをしていくことにしております。以上でございます。

○（松田）委員長

ありがとうございました。報告事項を資料1、資料2によりまして説明をさせていただきました。新しい委員さん、本当にどうぞよろしくお願いをいたします。それから、資料2につきましてなにかご質問等よろしいでしょうか。はい、申し上げます。

○（大杉）委員

大杉です。よろしくお願ひします。資料2を見させていただきまして、また先程のお話にもありましたけれども、昨年よりも応募が多くあるのではないかということで、各地にいろいろ事務局さんが行かれてお話をされているということもお聞きしました。たくさんの応募があればいいなと私も思っております。群馬県と神奈川県、つまり条例が新たに制定された県からも申込みがあるかどうか、見通しはどうかということをお聞きしたいんです。それと、新しく申込みをしたいがどうすればよいかというように聞かれたところはあるのかどうか。現時点で2点お伺いできれば嬉しいです。

○（松田）委員長

それでは事務局の方から、状況をお願いいたします

○（鈴木）事務局

はい、条例を制定をされたところを中心に私たちもPRに行っております。実は問い合わせはちょこちょこいただいているようではございますが、まだ「申し込みします」とか、申し込みに至ったケースは現時点ではございません。引き続き働きかけを行いたいと思います。

○（松田）委員長

ありがとうございます。はい、どうぞ。

○（廣田）委員

全日本ろうあ連盟青年部長の廣田です。一つお聞きしたいんですけども、昨年、開催が11月ということで、今年は早めに9月になったということなんですけども、9月の開催に当たって、日程的に学校として厳しいんじゃないかというようなご意見があったかどうか、もしなければ来年・再来年も9月ぐらいに開催する方向で理解してもいいのかどうか、日程について全国の反応について教えていただけますか。

○（松田）委員長

ありがとうございます。それでは事務局お願いします。

○（鈴木）事務局

9月に変わったこと自体については、特段のご意見等はなかったんですけども、一部の学校で応募の締切に近い時期が、期末テストの頃と重なるとかという意見は少しありました。そういったご意見も踏まえて今後の運営について、来年度以降のことでしたら考えていきたいと思ひます。

○（廣田）委員

分かりました。ありがとうございます。

○（松田）委員長

そのほかには、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。また何かありましたら、のちほどお伺いしたいと思います。

4 議 題

（1）議案第1号

第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園実施計画について（資料3）

○（松田）委員長

それでは議事の方に入らせていただきたいと思います。お手元の資料3をご覧ください。議案第1号、第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園実施計画（案）につきまして、事務局から説明をお願いします。

○（鈴木）事務局

それでは、資料3をご覧ください。実施計画（案）というふうにさせていただいております。今回皆様方からご意見をいただき、この案をもって実際の運営を進めていきたいと考えております。それでは1枚めくっていただき、1頁でございます。先程来から出てきておりますが、5月の11日から参加チームを募集しております。応募いただいたチームの中から、今月の終りに予選審査を行いまして、20チームが本選出場ということになっております。

めくっていただきまして、2頁でございますが、2頁の10番に募集広報というのが出ております。インターネットやチラシを中心にPRさせていただいております。加えましてJRの鳥取・米子・松江駅などに電子看板のディスプレイを出しまして広報を行っております。また、鳥取一円の聴覚障がい者協会の皆様方におかれては、全国のイベント等で、ことあるごとにPRをしていただきまして、認知度が高まっているのではないかと考えております。

次、3頁をご覧ください。司会者・審査員及びゲストパフォーマーというのでございます。司会者でございますが、昨年と引き続きまして早瀬憲太郎様、NHKの「みんなの手話」等で有名でございます。また、同じく歌手で今井絵理子さん、元SPEEDのメンバーです。今井さんは最近になってSPEEDの元のメンバーの方とユニットを組まれてまた新たな活動を始められたいと、その辺りも非常に話題性のある方においでいただけるのではないかと考えております。

2番の審査員をご紹介したいと思います。審査員長につきましては昨年度に引き続きまして、庄崎隆志さんでございます。ろうの方でございますが、演出家・俳優ということで鳥取県に何度もおいでいただきまして、非常に鳥取のファンになっていただいているということで、今年も審査員長をお願いしたいと考えております。めくっていただきまして4頁でございます。次の貴田みどりさんは、昨年と同じく審査員をお願いする予定にしております。次の方が新しい方でございますが、小中栄一様、全日本ろうあ連盟の副理事長でございます。三浦剛様、俳優の方でございます。5頁に移りますけれども水戸真奈美様、歌手の方でございます。いろいろと聴覚障がいの

方との出会いをきっかけに、そういう命ですとか、生きる力とか、そういった活動を中心に行っておられます。次の方でございますが佐分利育代様です。鳥取大学の名誉教授でございます、昨年まで鳥取大学の芸術文化センター長をしておられました。専門性としてはダンス関係で、地元からご参加いただきたいというふうに考えております。一番下に予選審査会審査員として上の審査員のうち、庄崎様・小中様・水戸様・佐分利様に予備審査をお願いしたいと考えております。

6頁をご覧ください。今回のゲスト演技をしていただく手話パフォーマーでございます。HANDSIGN というメンバーでございます、昨年も鳥取で行われました全国障がい者芸術文化祭・アートとっとりフェスタとサポートアートとっとりフェスタにもご出演いただきましたし、リーダーの方におかれましては昨年度審査員としてご参加いただいております。今回はHANDSIGNのグループとしてゲストパフォーマーでおいでいただくということでございます。非常に手話を使ったパフォーマンス・音楽・ダンスに新たな手話の表現方法を、また山陰地区の子どもたちにも見ていただくいい機会になるのではないかなあと考えております。また、今考えておりますのは、下のところに書いております大会の公式テーマソングを、このHANDSIGNの「友達」という曲がございますので、ちょっと今流します。前のモニターの方をご覧ください。

(HANDSIGNの「友達」のPVを放映)

HANDSIGNの「友達」という曲を聞いていただきました。この曲について大会のフィナーレにみんなで歌うことで、感動的な演出をしたいと考えております。

7頁でございます。審査基準についてご説明します。予選審査と本選審査を別々に説明させていただきます。まず予選審査でございますが、7月29日に先程ご紹介した4名の方に審査を行っていただきたいと考えております。各応募チームは動画を応募してきますので、動画を見て、手話が正確なのか、分かりやすいものか、あとは演技力や演出力やパフォーマンス力、あと全体的な表現、そういったものを見て審査をしていただこうと考えております。審査を行いまして20チームに絞るということでございます。

あと、8頁の方に本選審査の実施要領を載せております。本選は大会の9月22日で、先程ご紹介した6名の方に審査をしていただきます。演技時間を8分までとしておりまして、8分間で行っていただくということになります。採点法について次の頁でご紹介をしております。聴覚障がいのある方に60点満点、聞こえる人に40点満点ということで、全体で300点満点で審査を行います。審査項目は先程の予選審査と同様の正確さ・分かりやすさ、パフォーマンスの表現力、そういったことで審査を行うことにしております。

表彰につきましては、優勝、準優勝、3位。あとは審査員特別賞を設けたいと考えております。あと、6番の(3)のところに、全日本ろうあ連盟理事長様に全日本ろうあ連盟賞と、(2)の日本財団理事長様より日本財団賞を決定していただくことにしております。(3)と(4)については、いずれも優勝のチームに授与していただくことにしております。あと、日本財団賞については、鳥取県の1位のチームにも出していただくというふうに、日本財団の方からお話をいただいております。

めくっていただきまして10頁でございます。大会の観覧についてご紹介いたします。昨年は少し会場が狭かったのですが、今年度は米子市公会堂ということで、

千人規模のホールになります。観覧を自由にしておりまして、入場料無料。入場者数については、一般の方々は650名程度入場いただけるのではないかとこのように思っております。ちなみに、千人と650人の差は、出演チームであったり、その引率であったり、来賓であったり関係者ということになります。昨年より多くの方々に、会場にお越しいただけるのではないかとこのように考えております。あと、同時進行でステージの様子をインターネットでもライブ配信する予定にしております。

実施計画の最後のところになります。11頁。大会運営について説明いたします。まず一番の大会スケジュールでございますけれども、9月21日にリハーサルを行いまして、その日の午後6時から、交流会を同じく米子市の全日空ホテルで行いたいと考えております。翌9月22日、米子市公会堂で本選でございます。9時30分から開会式を始めたいと思います。昼休憩をはさみまして、午前・午後とございまして、3時からゲストパフォーマンスを演じて、3時半から表彰式という運びにしたいと思っております。終了としましては午後4時20分には終りたいと考えております。

13頁をご覧ください。会場計画でございます。1階席と2階席がございます。1階席の方には情報保障のコーナーを設けまして、手話通訳はもちろんですが、要約筆記等を設置をしたり、あとは車椅子席なども設けたりというふうに考えております。あと、米子市公会堂でございますが、駐車場が非常に狭いということがございまして、米子市役所ですとか、西部総合事務所、最寄りの公的駐車場などの利用を誘導していきたいと考えているところです。

15頁をご覧ください。運営体制でございますが、実行委員会企画推進会議（本日の会議）、これが大会の運営を推進・企画を作っていく会議になります。大会の運営本部を設置いたしまして、様々な当日までの準備、大会の準備に携わっていくということでございます。

めくっていただきまして、16頁でございます。最後でございますが、イベントバリアフリーということで、広報物等に工夫をしたり、会場設営に当たっては、障がいのある方がご覧いただけるようにしっかりとサポートしていきたいというふうに考えております。あとは救護スペースを会場内に確保して、看護師を配置したり、育児中の方に対応するために授乳スペースを会場内に設けたいなど考えているところでございます。実施計画を駆け足で説明をさせていただきましたが、以上簡単でございますが、皆様方のご意見をいただいて反映をさせていただければなあというふうに考えております。よろしく願いいたします。

○（松田）委員長

ありがとうございました。それではご意見をお願いいたします。

○（諸家）委員

本選のときに1分間の準備時間があると思います。8分間が演技時間とというように書いてありますけれども、その時間の確認方法はどうか。前回のとき、時間をオーバーしてしまって2位になったという経過がございますので、ろうあ者の場合、時間の確認方法はどのようにしたらいいか、皆さん注目していると、時間が迫っ

ているのか、足りないのか、そういうようなことが分かる工夫をどのようにお考えでしょうか。演技されている方も時間が分かるかどうかもお願ひいたします。

○（松田）委員長

では、事務局の方から今のところ何か想定がありますか。

○（鈴木）事務局

今の予定なんですけども、実はそういったタイムキーパー的なものは考えてなかったんです。といいますのは、演技される方がそれを気にされると、なかなか演技に集中できないということがあるかなあと考えておるんですけども、出した方がいいということであれば、それは考えていきたいなあと思うんですけども、いかがでしょうか。演技をされる方で気にならなければいいかとは思っています。

○（諸家）委員

それは体で覚えるのがいいのでしょうか。演技される方は体で覚えるということもあると思いますが、繰り返し練習をする間に8分間というのを体で覚えられたらどうか、その辺りも含めまして、その辺りも評価に含めるということでしょうか。

○（小椋）教育次長

関連して、教育委員会小椋でございます。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。今おっしゃられたように、去年の反省のこの会するときにも、時間の表示のことはかなり議題になっていた記憶があって、私も同じように時間の表示をどのようにされるのかを聞こうと今日は思っていました。たぶん、生徒はそんなに時間の表示があっても、気になることはないんじゃないかと思えます。私は、残り何分とか、経過時間とかいうことが観客の皆さんにも分かるように、電光掲示のような試合時間が残り何分とか表示されるような、ああいうのが使われるといいのかなあと去年も思っていました。

○（松田）委員長

ありがとうございます。その他、ご意見いかがでしょうか。どうぞ。

○（廣田）委員

三つ話したいと思えます。一つ目にお伺いしたいのは、優勝旗の返還がありますよね、ないとは思いますが、去年の優勝校がもし予選に落ちた場合、優勝旗だけの返還というかたちになるのかどうか、その辺りはどうなるのでしょうか。二つ目は大会のテーマソング、今年のみ大会だけなののでしょうか。それとも引き続きになるのでしょうか。テーマソングと言いますと、聞こえる方のお客さんを巻き込む必要があると思うので、大会のときだけではなくて、大会外で自由な機会に聞いていただけるような機会がつかれないのかということもお聞きしたいです。参加者の方も出演される方もそのことを知っていれば、更に大会が盛り上がるのではないかと思います。三つ目の質問は演技の済んだ後に、司会の方と生徒のトークがあると思えますが、そのときに去年は手話通訳の方がいなくて、司会の方が通訳をしていた状況がありましたので、ほ

んとうは司会の方と通訳は分けた方がいいと思いますので、司会者と手話通訳者を分ける配慮をぜひお願いしたいと思います。以上二つが質問と、一つが意見です。よろしく申し上げます。

○（松田）委員長

それでは先程の時間の表示を含めて、お願いします。

○（鈴木）事務局

時間表示でございますが、行います。実は演技自体で時間も審査項目に入っていて、オーバーをすればするほど減点が大きくなるということでございます。ただ、最初のカリキュラムは8分で組んでおられるはずですので、目やすとして、見ておられる方にも、あと1分だとか、その辺り分かっていたらいいように工夫したいと思っております。

優勝旗の返還でございますけれども、前年優勝校にはおいでいただこうと思っております。まず、本選にぜひ出ていただきたいと思っておりますが、万が一そういったことがあった場合には、代表の方においでいただくように考えたいと思っております。テーマソングでございますけれども、とりあえず今年度はこのテーマソングということで、来年以降につきましては、皆様方のご意見等いただければと思っております。やはり、テーマソング自体が大会を盛り上げていくと思っておりますので、CMですとかインターネットの動画サイトですとか、そういったところでもアップして行って、気運を高めていきたいと考えております。

3番目の手話通訳と司会を分けておいた方がいいのではないかというご意見でございますが、これは分けます。手話通訳はきちんと配置をいたします。どうも昨年度は司会の今井さんが手話ができますものですから、早瀬さんが今井さんに「手話をやってよ」みたいな振りをされたというのがあったようでございますが、そういったハプニングもあるかもしれませんが、きちんと手話通訳をつけて、やるようにしたいと考えております。以上でございます。

○（諸家）委員

諸家です。さっきの時間表示の件なんですけれども、生徒が見るだけではなくて、お客様皆さんが見えるような時計表示があると、時間オーバーしたら、ああやっぱりそうだなあということで納得いかれるので、その方がほんとにいいと思います。お客様が確認できるような表示ということもいいかと思っております。

○（鈴木）事務局

はい、そのようにします。

○（松田）委員長

そのほかは、はい、どうぞ。

○（大杉）委員

大杉です。今ご説明を聞かせていただいて、二つほど提案させていただきます。一つ目は先程廣田さんも意見を述べられた手話のテーマソングについて。案そのものは悪くないと思うんですけども、資料の4の中の実施計画の中に、書き方としてもう少し工夫が必要かなと思う部分があります。それは6頁のところですが、大会の最後に参加者・来場者と一緒に、手話を交えて大会テーマソングを歌うと書いてあります。出演者に限られていれば分かるのですが、参加者・来場者の中には少し気持的にそぐわない方もおられると思います。実際にどうなるか分かりませんが、事前に要綱にこのような書き方であると、それに合わせて計画は進められるわけですね。その辺りがちょっと心配です。HANDSIGNの皆さんがテーマソングを歌う（披露する）というのが明記されておりますけれども、参加者・来場者の皆さんにもと書いてあるその部分は保留にした方がいいのではないかという意見です。

もう一つは、聴覚障がい者という言葉の使い方ですけども、この言葉が出てくる場所によって、その言葉の意味がずれているところがあります。10頁の4、注意事項（1）聴覚障がい者向けに情報保障機器を確保する、というふうにありますけれども、資料の最後の会場整備のイに書いてあります聴覚障がい者への対応、この聴覚障がい者という言葉が、先程の言葉と意味が違うんじゃないかと思います。10頁のところでは、手話が分かる人なのか、手話が分からない人なのか、情報保障席というのはちょっと意味が分からないところがあります。字幕スクリーンが舞台の下手の方に設置されるようなので、その前の辺りのところを確保するという意味であれば、聴覚障がい者は手話が分かる分からないに関係ない、広い意味での聴覚障がい者になると思います。一方、最後のページでは、手話が分かる聴覚障がい者という意味になりますよね。同じ実施要綱の中での聴覚障がい者という同じ言葉でも、それぞれ意味が異なっていたり、曖昧になっている部分があります。ちょうどよい機会ですので、一つの課題として、情報保障の言葉も含めて、聴覚障がい者という言葉を整理できたらよいのではないかと思いますので、提案します。

○（諸家）委員

諸家です。意見は同じなんですけども、私も情報保障席という言葉にちょっと抵抗があります。私たちが使う情報保障席というのは、手話通訳が設置されて、その手話通訳を見やすい所というイメージなんですけれども、確かにこのパフォーマンスの場合は手話のパフォーマンスなので、こちら側としてもろう者が困らないという環境は当然のことで、情報保障席というのは、それに対してどういう意味合いなのか、仮に要約筆記が必要な人のための席という意味であれば分かります。そういった意味で、情報保障という言葉の意味のとらえ方ですね。手話パフォーマンス甲子園での使い方というのが曖昧で、ちょっとよく分からなかったんです。

○（松田）委員長

どうですか？

○（鈴木）事務局

はい、言葉の使い方のご意見をいただきまして、書かせていただいている意味合いとしては、手話が見やすい席、要約筆記が見やすい席という意味合いでございます。たとえば、表現方法として、聴覚障がいの方向けに手話や要約筆記が見やすい席を確保するというふうな言い方に換えた方がよろしいでしょうか。

○（大杉）委員

修正案の文章をすぐにおっしゃっていただいて、びっくりしました。ありがとうございます。鳥取県手話言語条例での言葉の使い方もあると思いますので、少し時間をかけて言葉使いを整理されたらいかがでしょうか。

○（鈴木）事務局

はい、分かりました。もう一度ちょっと全体を見なおして整理をさせていただきたいと思います。

○（松田）委員長

そのほかに、ご意見は。どうぞ。

○（田中）委員

手話サークル連絡協議会の田中です。よろしくお願ひします。先程、手話通訳についてのお話があったんですけども、昨年も早瀬さんが今井さんに「通訳をしたら」ということがあったようなんですけども、同じ司会者ですし、黙っていれば今年も同じことがあり得るとも限らないので、やはり事前に、どういったかたちを取るのかということをしつかり通訳者・関係者・司会者との打ち合わせをしていただいた方がいいのではないかと思います。

○（松田）委員長

ありがとうございました。事務局の方はどうですか？

○（鈴木）事務局

きちんと事前に打ち合わせをさしていただいて、ハプニングが起こらないように気をつけたいと思います。

○（松田）委員長

松田ですけれども、少し昨年の状況を思い返してみますと、昨年は二つの会場に分けたものですから、少し困ったところもありました。実は、上の会場でスクリーンで見ていただくんですけども、本会場でやっておられる手話がスクリーンでは見にくかったということがありました。それで急遽5階の会場にも手話通訳者の方についてもらったということがありました。司会の方につく通訳の方をお借りしたのじゃないかと思ひます。それで通訳の方が付かれなかったので、早瀬さんが今井さんとの話の中で、通訳をしてくださったのかも知れません。その辺は、詳しいところは分かりま

せんけれども、事務局が申しあげたように、今年はそんなことのないようにきちんとした手話通訳者を配置していただいて、それから要約筆記というものも確実にするというので、やりたいと思います。

そのほかは、いかがでしょうか？どうぞ。

○（国広）委員

質問事項が三つか四つぐらいあります。まず、マイクのことなんです。たしか去年の第1回の反省会の中で、マイクを持って、それは先程のお話の中で司会者（今井さん）がマイクを持ったり、早瀬さんがマイクを持ったりして手話がやりにくかった部分について、先程の委員長のご説明のとおり、改善をされるだろうというふうに思いますので、そこはしっかりお願いしたいです。

それから、14頁の下の方に、舞台映像モニターというのがありますが、たぶん配慮をなさるんだと思いますが、去年の場合も映像を見ると、手話通訳部分が入らなかったのがあるので、そこは観客の方はろう者も当然いますので、そこはしっかりとモニターの中に映るようにお願いをしたいと思います。

次は質問です。15頁の運営体制の図の中で、あまり詳しい説明がなかったので、質問させていただきます。アテンドというのがあります。出演者班・出場チームのアテンド、ゲストパフォーマーのアテンド、交流会のアテンド。去年の場合にはアテンドには参加しない高校生に誘導をしてもらってはどうか、つまり高校生を対象とした甲子園なので、高校生にもっと積極的に動いてもらう場面を想定したらどうかという話があったと思います。この辺のところを今年の第2回はどのようにお考えなのか、というのが質問でございます。それと飲食コーナー、物販コーナーというのが準備されています。去年の場合は手話カフェということで、けっこうにぎわいがあったり、手話カフェの運営でなかなか大変だったね、という声も聞いたんですが、そういうふうな手話カフェというのを飲食コーナーの中に計画されているかどうかということをお聞きしたいと思います。

○（松田）委員長

ありがとうございます。では、事務局お願いします。

○（鈴木）事務局

マイクについては、動きやすいように、たとえばヘッドとかを考えてみたいと思います。次に舞台映像モニターに手話通訳が入るようにとのことですが、まだ業者が確定していないんですけども、その業者さんとどういふことができるかということについて相談をしたいと思います。誘導ですね、参加しない高校生に入ってもらったということでもございまして、いくつか高校の方とも相談させてください。いろんな場面での誘導があるように思います。おっしゃられたように高校生が運営の方に参加するというのも大変有意義なことですので、それは高校さんとも相談してまたご報告したいと思います。あと、飲食物販関係なんですけども、これはかっちりと決めておるものではないんですが、今年スタイルは実は米子でございまして、米子は地元の商工会議所さん等が非常に一生懸命イベント等に出店される「米子マルシェ」というのを

存じでしょうか。ちょっとこじやれたヨーロッパ風のテントの中でいろんな食べ物とか土産物を販売するものです。ここに障がいのある方々の事業所に大半は入っていただくことはできないかと思っています。昨年の手話カフェとはスタイルは違うんですけども、そういったこともやってみてはどうかと思っています。これは今の私の思いつきなんでどうなるか分かりませんが、米子には手話カフェがございますので、たとえばブースの中の一つに米子手話カフェに出させていただくというのもお声かけしてみて、賛同が得られればそういったことも考えられるかもしれませんし、地元の方にも参加していただけるような仕組みを作っていきたいと思っています。

○（松田）委員長

よろしいでしょうか。そのほかにはいかがでしょうか。

○（山内）委員

校長会の山内です。既に決まっていることかもしれないんですが、前年度が始めての大会で、優勝旗がありますね。優勝校が持ち帰っていると思うんですけども、返還が行われると、大体いろんな競技なんかではレプリカとか記念の盾を作ったりしまして優勝校が保管するんですが、そういうことは考えておられるかどうかお聞きしたいんですけども。

○（鈴木）事務局

レプリカをお渡しいたします。

○（山内）委員

じゃあ、野球と同じように有勝した学校名を、リボンを付けて持ち回りでやるという考え方ですか。

○（鈴木）事務局

はい、優勝されたところには記念に残るようなレプリカは贈呈いたします。

○（山内）委員

それから先程ご質問に対する校長会の答えになるかと思うんですけども、アテンドということで、たとえば校長会に入っているどこかの学校から、動員をかけて出すかどうかとなるわけですけども、たぶん9月の22日前後といいますと、高等学校いろんなかたちの学校行事、学校祭（体育祭・文化祭）をもってきている時期で、なかなか動員がかけにくい時期かと思います。それともう一点、7月10日が今回締切なんですけども、先程廣田委員の質問もあったんですけども、この時期に締切をもってきますと、3学期制を取っている学校はほとんどが期末試験がここにきますので、なかなか動きが取りにくい時期かと思ひまして、今回の資料を見させていただいて、倉吉北高校とか鳥取城北高校はどうだと確認を取りました。今準備を進めておると、これは随分前からやることを決めていたので可能であったけれども、急に決めても7月10日の締切ですと、なかなか難しいんじゃないかという返事でした。

○（松田）委員長

ありがとうございました。事務局どうぞ。

○（鈴木）事務局

アテンド関係・誘導関係につきましては、またご相談をさせていただきます。あとの7月10日の時期が非常に立て込んでいる時期だということで、ここはほんとに来年度の大会で注意して、あらかじめ学校の方とお話を聞いた上で設定をしたいと思います。

○（松田）委員長

そのほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、ただいまいただいたご意見につきまして、事務局の方から回答をいただきましたもの、それから今後こちらで詳細を詰めまして、またご連絡なりというかたちでしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。それでは、この計画につきましてはよろしいでしょうか。それではこの会が終了した後、伝えたいことがありましたらご遠慮なくお伝えいただければと思いますので、よろしくお願ひします。

5 その他

（1）平成27年度予算及び平成26年度決算について（資料4）

○（松田）委員長

それでは、最後でございますけれども、その他の報告ということで、資料4の方、これは27年度の予算と26年度の決算を合わせて、報告を事務局の方からよろしくお願ひします。

○（鈴木）事務局

それでは資料4をご覧くださいませでしょうか。まず、平成27年度収支予算書でございます。これにつきましては、既に今年の6月25日に実行委員会の会長でございます平井鳥取県知事の方に専決をいただいております。最終的には今回これを皆様にご覧いただき、実行委員会がまた冬にございますので、そのときに前後はするんですが、実行委員の方々にご確認いただくようにしたいと思っております。内容を説明させていただきます。収入の部と支出の部が別れておまして、収入ですけども今年度も日本財団様の方に多くの助成金2787万円をいただきまして、運営をしていきたいと考えております。あと、鳥取県の負担金ということで757万5千円、協賛金として百万円、総額といたしまして3644万5938円という収入で運営をしていきたいと考えております。協賛金でございますけれども、もし皆様方のお知り合いの企業様とかございましたら協賛金を1万円から募っております。私も昨日と本日の午前中と、西部地区の企業様の方に幾つかお願ひに回ってきたところでございまして、いいお返事をいただいたところもあります。この収入が予算を越えるように頑張りたいと思います。皆様方のご協力をいただけると大変ありがたいと思います。

支出の部でございますが、実行委員会の運営費ということで、実行委員さんの旅費（本日の企画推進会議等の経費）69万8千円。チラシ・ポスター等の広告宣伝費、テレビ・新聞等の宣伝広報費409万6千円、大会準備費といたしまして146万7千円（関係機関との連絡調整費、業者設定審査会・予選審査等の経費）。次が大会運営費ということで、ここが中心になるところでございますが3018万4938円、大会をイベント業者に委託をする費用と参加者の旅費（上限はありますが）のお支払をすることにしてあります。あと、審査員と出演者の出演費、交流会関係費ということで、経常しております。総額は収入と同じく3644万5938円でございます。めくっていただきまして、2頁には先程説明をさせていただいた事業計画の中心となる部分を抽出しております。

3頁でございます。平成26年度大会の収支決算でございます。これにつきまして、収入と支出について説明させていただきます。日本財団様の方から2226万円の助成金をいただいております。鳥取県の負担金で440万余、雑入として450万余。雑入が少し多く見えますが、交流会費を本来県の方で賄う予定でございましたが、会計を円滑にするために実行委員会の方で行うことにしましたので、雑入のところで経常しております。支出は総務費ということで62万4千円、広報宣伝費で89万4千円、事業費（大会運営費を中心）2474万5千円、交流会経費で536万9千円ということで、総額3166万4485円の決算でございました。

事業報告としましては、次ページ以降に掲載しておりますので、ご参照してください。予算・決算については、以上でございます。

○（松田）委員長

それでは、資料4につきまして、ご質問ありましたら、よろしいでしょうか。どうぞ。

○（田中）委員

手話サークル連絡協議会の田中です。昨年と今年度と比べまして、広告宣伝費というのが一桁違うんですけども、かなりこれは広告の幅が広がっているのでしょうか。

○（鈴木）事務局

昨年度と大きな違いとしましては、会場のキャパシティが倍になります。その関係で、生徒の皆さんに張り切ってやっていただくために、より多くの方々においでいただきたいということになりますと、やはり新聞広告ですとか、折り込みチラシとかテレビCMを強化していきたいと思っております、広報宣伝費の方は強化していただいております。

○（松田）委員

そのほか、いかがでしょうか。

(2) 今後の日程について (資料5)

○ (松田) 委員長

それでは最後に資料5を、事務局から説明をお願いしたいと思います。

○ (鈴木) 事務局

今後のスケジュールでございます。資料5の太枠で囲ったところが今日以降ということになります。先程から出ておりますが、来週末参加申し込み締切でございます。7月29日に予選審査会を行いまして、8月上旬には結果を通知いたします。8月の終りに先程いただいたご意見等も踏まえた準備状況ですとかを報告するために、皆様に再度ご足労いただければと考えているところでございます。9月21日に交流会、リハーサル。翌22日に本選ということでございます。それが終りましてから12月に実行委員会の総会をいたしまして、来年の開催日等を決定していきたいと思っております。また、来年の大会に向けてのご意見をいただくための企画推進会議を2月の月上旬に開かせていただきまして、またこちらも寒い時期になりますが、お集まりいただければというふうに考えております。以上でございます。

○ (松田) 委員長

なにかご質問、ご意見。はい、どうぞ。

○ (国広) 委員

大会の募集についてのチラシということは分かりましたが、関係者の方々へのチラシというのは、いつごろお作りになる予定なのかということをお聞きしたいと思います。それと、県内だけでなく県外からもたくさんおみえになると思うので、早めに作っていただければありがたいと思っております。チラシを作る目安を教えてくださいたいと思っております。

○ (鈴木) 事務局

2段階で行いたいと考えております。最初は公共施設とか駅とかいったところに置くチラシ・ポスターを8月に作りまして配布をしたいと考えております。あとは9月の大会の前になりましたら、CMとか新聞広告とか、そういったより目に触れやすい媒体を活用してPRをしたいと考えております。なるべく早めに作って、より多くの方々に見ていただけるように作りたいと思っております。

○ (国広) 委員

先程の資料3で実施計画の資料の中で、2頁、ここで募集広告ということで、10項目があるんですが、たとえばこれが8月に配布予定のPRにこれぐらいは広報される予定があるのでしょうか。と言いますのは、各種イベントでのPR活動(全国ろうあ者大会他、各種大会等でのPR)、これはたぶん紙媒体だと思うのですが、全国手話通訳問題研究集会もあります。そういう頃でもし配布できればいいと思ったものですから、ただ、8月配布なので微妙な日にちかなと、もしそういうチラシがいただけ

るようであれば、開催地の実行委員会の方に PR をお願いして資料の中に入れていただくとか、そういうことができるかなと思いながら質問をさせていただきました。

○（鈴木）事務局

2 頁に掲載しております広報については、参加チームの募集広報でございます。来場者の方々に対する PR は行いたいと考えております。先程おっしゃられた大会があるとお聞きしましたので、その大会になんらかのものがお配りいただけるような格好で準備はさせていただきたいと思っております。

○（松田）委員長

そのほかよろしいでしょうか。はい、どうぞ。

○（大杉）委員

大杉です。今ご説明いただきました資料 5 を見ますと、来年 2 月上旬に 3 回目の会議があると書いてあります。そのときは、来年度の第 3 回大会の基本計画について審議をする予定となっておりますが、もし来年度も 9 月に開催する予定ということであれば、遡って 2 月の時期には、実施内容などがほぼ固まっている必要があると思っております。そうしますと、2 月より前の時期に審査員やゲストパフォーマーなど、人選に関わる場所の調整が進められるということですので理解してよろしいでしょうか。

○（鈴木）事務局

2 月上旬に開催いたします企画推進会議については、もう少し骨の部分といいたしうか基本的な部分について、ご相談をさせていただきたいと思っております。そのときに例えば、こういった催しを盛り込んではどうだとか、そういったものについてご意見をいただきながら、少しずつ肉づけをしていきたいと思っております。

○（大杉）委員

たとえば、司会の方ですとか、ゲスト（今年でいえば HANDSIGN の方々）、審査員を 2 月の会議開催以降にお願いするということでは時期的に厳しいと思うのですが、その辺りのことをお伺いしたいと思っております。

○（鈴木）事務局

おっしゃるように、司会の方とか基本的に、日程の話、会場の話、タイムスケジュールの話、その辺 2 月までに決めておかなければいけないことについては、その段階に相談したいと思っております。仮に更に早く決めなければいけないことがあれば、集まっていたかどうかの形式は考えたいと思っておりますが、そこはご相談しながら進めていきたいと思っております。

○（大杉）委員

分かりました。

○（松田）委員長

ありがとうございます。そのほかはいかがでしょうか。それでは一応この日程で進ませていただき、何かございましたら、またご連絡をさせていただきたいと思います。そのほか何かございましたら。

○（大杉）委員

すみません。ちょっとどこで言おうかと迷っていたことがありますので、ここで言わせていただきます。去年は鳥取市内で開催されたということで、宿泊施設がどこも一杯であわてたという経過があります。米子市の宿泊事情は鳥取市と比べてどうなんでしょうか。宿泊施設の数、鳥取市と比べたら大丈夫ですか。前もって早く予約をしなければいけないものなのか、その辺りいかがでしょう。

○（鈴木）事務局

元観光課の鈴木からご説明します。宿は鳥取市に比べますと客室数は米子は数段多いです。一つは皆生温泉という山陰で最も大きな温泉地をかかえておりますので、温泉がいい方は皆生温泉でお泊りいただいて、あとは駅前のホテルがかなり充実しておりますので、お泊りいただけたらと思います。この日にちがシルバーウィークの中日になるものですから、観光客の方が大勢いらっしゃって、宿が取りにくくなる可能性というのは出てくるかもしれません。それで、審査員の皆様方と委員の皆様方、参加チームの方々の宿については、今のところ仮押さえはしておりますので、ご安心いただければと思います。

○（松田）委員長

そのほか何かございましたら。どうぞ。

○（諸家）委員

会場は広いから大丈夫だという話は、以前からお聞きはしているんですけども、会場席、先程も言いましたけれども、基本的に手話パフォーマンスなので、聞こえる・聞こえない、どこにいても誰がどこにいても、楽しめる環境というのを作らないといけないと思います。これが一つ言いたいことと、あとは参加する高校生とか関係者（家族、応援にきた方々）の席も決まっているものですか？参加チームの場所は決まっていますね。ただ、そのチームの応援者席は自由に座れるのでしょうか。

○（鈴木）事務局

今のところは自由席にしております。席が決まってません。

○（松田）委員長

そのほかございましたら、いい機会ですのでご意見いただきたいと思います。よろしいでしょうか。それでは第2回目、すぐに来てしまいますので、事務局は一生懸命頑張りますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。では一旦、事務局にお返しいたします。ありがとうございました。

6 閉 会

○（岡村）事務局

ありがとうございました。皆様の引き続きのご協力をいただきまして、事務局の方は頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いをいたします。では、以上をもちまして、手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議の平成27年度第1回の会議を終らせていただきます。本日はお忙しい中、ほんとうにありがとうございました。お忘れ物なさいませんように、気をつけてお帰りくださいませ。